



支部医政部長を引き受けるにあたって

中央区西支部 三谷 郁生

この度、岩澤先生の後任として中央区西支部医政部長を仰せつかりました、みに胃腸科内科の三谷と申します。この原稿は各支部の持ち回りで、今回中央区西支部の担当であったようですが、医政部長を承諾すると同時に鈴木部長より原稿依頼のお電話があり、医政部に顔も出さないうちから投稿する羽目になりました。

オピニオンとは正論と言ひ、意見と言ひ、いわば『大説』ですが、小生にあるのは私的にぶつぶつと囁く、『小説』ばかりです。と言うことで「オピニオン」の趣旨にはそぐわないかもしれませんがご挨拶させていただきます。

私に医師会の班長の声がかかったのは開業して2年目ぐらいでしたか。生来極め付きの面倒臭がり屋で、凡そ面倒なことから逃げ回ったあげく、究極のお気楽を目指して開業したところ、これが想像を絶する途轍もなく面倒なことだったと気がついた時には後の祭り、あまつさえ開業医は戸板一枚下は地獄だなどつぶやきつつ自らの愚かさを恨み、人生も半ばをとうに過ぎて、とどのつまりこの面倒臭がり身が滅ぼしたのだ、あんまり逃げてばかりも居られないのだと悟ったのでした。そう言った心境の変化もあり、また、たいした仕事もなく雑用係だからと言われ、雑用ならば誰かがせざるを得まいと思ひお引き受けしました。その後組長にもなりましたが、ここまでは確かに雑用係でした。組長になり支部の役員会に顔を出さなければならなくなり、財務委員まではほんとお飾りでよかったです。医政委員くらいから少し怪しくなり、ついに医政部長をお引き受けすることとなりました。これはもうまんざら雑用でもありますまい。

さて、もう20年以上前、友人のアメリカ留学

先に遊びに行った際、壮大で、清潔感あふれ、立派で瀟洒な建物と、中庭には、白い旗のはためく広大な純白のテラスを配した、まるでリゾートホテルさながらの、まさに癒しの場であると感じさせる病院を見て驚嘆しました。あちらはその分患者から取り返す医療制度ですから無論日本とは比較にならないのですが、病院に対する考えは日本と随分と違うなと感じました。片や私の赴任した地方都市で見た風景は、新しく、近代的で、立派な市庁舎と、目と鼻の先にある老朽化した、お世辞にも、立派だとか、近代的だとかは言えない地方の中核病院でした。これが日本を、日本の有りよう、構造と言ったものを象徴しているようでした。日本と言うよりは日本人は貧しいのだとつくづく思いました。

以来日本はますますさもなく、貧しくなり、ない袖は振れないと、医療費をどんどん削っていっています。立派な役所は建てられても。話がだんだん暗くなりました。どうしてもニヒリズムに陥りがちになります。

医政といいますか、政治、経済は、横目でちらちら見る程度の興味はあるのですが、私の医政の原風景といったものはこんなものです。

昨今は当方の勉強不足もあり、とにかくいろいろの政策が、知らぬ間に、あるいはたいして情報もないままに非常な速さで次々と現れ、頭上を通過している感があります。都道府県医療適正化計画しかり、後期高齢者医療制度しかり、先般のケアマネージャーしかり、こういった政策についてまともに会員からじっくり意見を聞く間もなく、まともに議論されているとは言ひ難い状況で事態はどんどん進んでいきます。支部役員会で少しでもそういった情報に触

れることができる私でもよく内容が理解できない。いわんや役員でもない会員にはほとんど情報のない状態であろうと思われませんが、もう早速来年の4月より後期高齢者医療制度が始まるのだそうです。で、具体的に私たち医師は75歳以上の高齢者に限定してどういった医療をすればよいのでしょうか。実際働く人たちには具体的に何をするのか全く分かりません。かなり大掛かりかもしれない医療制度改革なのに当の医療従事者になにも具体的なイメージはないし、私たちは誰からも意見を聞かれた覚えがない。制度が始まる日程だけ決まり、保険制度もふくめ後はこれからと言うことでしょうか。私は非常に当惑しています。現場にはかなりの混乱をきたすと思われます。それにしてもこの程度のことも支部役員会や、医政委員会等に少しでも顔を出して情報の手配を聞けばこそ思うことで大多数の一般の会員にとってはある日突然知らされることになるのではないのでしょうか。其時には既にこうこうをいついつ施行と決まっていて、文句すら言えないのです。一体どうせいつちゅうのか。とつぶやくばかりです。事は極めて緊急を要しますが、皆さんはどう思

っているのでしょうか。

最初に班長をお引き受けしたのは、既に書いたような理由で、逃げ回ってもいられないと思ったこともあります。やはり良くも悪しくも日本医師会が我々医師の声を俎上に上げることのできる唯一の団体であるからでもあります。必要なか、不必要なのかと言えば、必要不可欠と考えれば、雑用ぐらひは引き受けようと思ったのです。医師会活動にほんの少しずつ参加したことによって、医療制度、政治、ひいては日本医師会そのものについての疑問は深まり、疑問符は増えて行くばかりですが、教えていただけの機会も増えました。ともすれば無力感ばかりが募って、なかなか系統だって納得の行くまで医政を勉強するまでには至りませんでした。「ニヒリズムとは怠け者の哲学である。」といったのは、誰でしたか。ただでさえ面度臭がり屋の私はともするとニヒリズムに陥りやすい傾向にあるのですが、この機会に、この諺を思い出しては医政の勉強をさせていただき、いつの日にかまともな『オピニオン』を書きたいと思うのであります。

(みたに胃腸科内科)

